



# 巻頭言

## ネットワーク型研究所

●  
白木澤佳子 Yoshiko SHIROKIZAWA

国立研究開発法人 科学技術振興機構 理事



2015年9月の国連総会において、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」(SDGs)が全会一致で採択された。SDGsは17の目標と169のターゲットから構成される、先進国と開発途上国が共に取り組むべき国際社会全体の普遍的な目標である。2016年6月にはSDGsの達成に向けた科学技術イノベーションの貢献をテーマとする第1回科学技術イノベーション(STI)フォーラムが国連で開催され、諸課題の解決や、より良い政策決定に資する科学的根拠を提供することに、強い期待が寄せられた。

我が国においても2016年5月には内閣に「持続可能な開発目標(SDGs)推進本部」が設置され、12月には「持続可能な開発目標(SDGs)実施指針」が策定されている。ドイツのベルテルスマン財団が昨年7月に発表したSDGs達成状況ランキングでは日本は149カ国中18位となっているが、我が国の科学技術力がSDGsの達成に大きく貢献できることは明らかである。

科学技術振興機構(JST)では濱口理事長のイニシアチブの下、「濱口プラン」を制定し構造改革を進めており、その一つ目の柱として「独創的な研究開発に挑戦するネットワーク型研究所」を掲げている。平成29年度に新たに開始した未来社会創造事業でのテーマ設定に際して、産業界をはじめ広く社会から提案を募るのもネットワーク型研究所としての新たな取り組みの一つであり、その成果はSDGsの達成に寄与するものとなることが期待される。

一方でERATO, CREST, さきがけ, COI, A-STEPなどのJSTのファンディングプログラムに参画する研究代表者は進行中のプログラムに限っても2000人を超える規模となる。このほか、プログラムディレクター、プログラムオフィサー、共同研究者等を含めると数千人規模の研究所として研究開発を推進していることになる。今後は最新の研究動向を把握するための若手研究者へのアンケートの実施とともに、論文等のエビデンスに基づく分析も行い、その結果を研究者にフィードバックし、現状分析、課題把握のためのオープンサイエンスのプラットフォームの構築を目指す。

また、リアルな研究所を持たないネットワーク型研究所の特徴を活かして、研究開発の成果を最大化するための国際化、人材育成、ダイバーシティの推進などの様々な取り組みを、ファンディングプログラムを通して推進する。さらに研究者が所属する大学と組織対組織の関係の構築を進める。優れた研究開発の成果が持続可能な開発目標の達成につながるように研究者の皆さんとともに取り組みたい。

© 2017 The Chemical Society of Japan